巻頭特集

赤ちゃんとママが、社会を変える！

ママの働き方応援隊 大阪池田校

子育て中も働き続けたい女性にとって、
仕事探しや育児とのバランスなど悩みは尽きない。
母親が子どもと一緒に働ける仕組みづくりに取り組む
『ママの働き方応援隊　大阪池田校』を取材した。

母となった女性たちが生み出す、新しい働き方

「日本の〝無縁社会〟を解消する」、「子育て中がメリットになる働き方を作る」。赤ちゃんを抱いた女性たちが声をそろえた。これから『池田市立五月丘小学校』で『ママの働き方応援隊　大阪池田校』による「赤ちゃん先生クラス」が始まる。先生はトレーナーとママ講師、そして赤ちゃんだ。

〝無縁社会〟とは人間関係が希薄になりつつある現代を表す言葉。育児中の母親も例外ではなく、誰にも相談できず孤立してしまう状況は〝孤育て〟と呼ばれる。育児中も働き続けたい女性に対して、世間の感覚や社会構造は追いついていないのが現状だ。

「育児か仕事か」、なぜか女性が問われがちなこの質問。母親たちが生んだ第三の選択肢が、2007年に神戸で設立された『NPO法人 ママの働き方応援隊』だ。全国に53拠点あり、『大阪池田校』（以下、同校）もそのひとつ。同校代表の園部佳子さんは「赤ちゃんと母親が一緒に働く私たちの活動が、社会を変えるきっかけになれば」と話す。赤ちゃんとの触れ合いから命の尊さを学ぶ「赤ちゃん先生クラス」は、全国の教育機関や企業、高齢者施設で導入されている成功事例だ。企業との連携イベントや社会起業家の育成など、多彩な事業に取り組んでいる。

この日の「赤ちゃん先生クラス」に集まった、トレーナーとママ講師＆赤ちゃん先生のみなさん

「誰かの役に立ちたい」と「子どもと一緒にいたい」の間で

「育児だけの生活をしていると社会から必要とされていないような感覚になってしまって、『どうにか社会と関わりたい。でも自分は子どもを預けてまで働きたいのかな？』と悩みました」とかつてを振り返るのはママ講師の森さん。ママ講師やトレーナーになるには有料講座を受講する必要があるが、活動には報奨金が支給される。同じくママ講師の市原さんは「ボランティアではなく、お金をいただくからにはきちんと仕事をしようという意識になりますね」と話す。開催費用はスポンサー企業が負担し、予算の捻出が難しい学校などでの開催にあてている。今回の「赤ちゃん先生クラス」もそうだ。

子どもたちは赤ちゃんに興味津々。ママ講師たちが「赤ちゃんは話せないから泣いて気持ちを伝えるんだよ」と言うと、子どもたちは「お腹すいた？」、「びっくりした？」と理由を考えながら懸命にあやし始めた。何もできないはずの赤ちゃんが子どもたちの思考を促し、行動を引き出す。「赤ちゃん先生クラス」という名前の由来だ。高齢者施設で実施すると介護や支援が必要な人も積極的にお世話を始め、活気づくという。「普段はやんちゃな男の子も動きがやさしくなった。こういう授業ができて有り難いです」と担任の有村先生。

ママの働き方応援隊
大阪池田校 代表　**園部佳子**さん
「私自身が東京の下町で大勢の人に囲まれて育ったので、子どもたちにも幅広い世代の方と出会いながら地域の中で成長してほしい、という思いで活動を始めました」

地域とのつながり、仲間とのつながり

かつて長女・長男とともに活動を始め、現在も第3子のともかちゃんと活動する園部さんは「家族に目を向けるようになりました」と自身の変化を述べる。「今は小学1年生のお姉ちゃんが、私たちが帰ると『ともか、楽しかった？今日は誰と握手したの？』と嬉しそうに聞くんです。幅広い世代に囲まれて育つ経験が残ってくれているのかな、と思います」。赤ちゃんが大きくなっても、トレーナーを続ける人や復職する人などキャリアは多様だ。

パワフルな活動の裏には工夫もある。たとえばあらかじめ補欠メンバーを決めておくスタンバイ制度。「急に子どもが熱を出して行けなくなっても、責める人はいません」とトレーナーの松原さん。一般企業が学ぶべき部分も大きいが、何よりも大切なのは母親の居場所という機能かもしれない。

「仕事がてら誰かの家に集まって、夕飯を食べてお風呂にも入れさせてもらって…ママ友には気を遣うのに、仲間とはなぜかそれができるんですよ」。トレーナーの譲尾さんが言うと、「似た感覚の人が多いからかな？」、「子どもを介してなくて、個人同士のつながりだから」と意見があがった。仲間と働くお母さんたちの姿は、赤ちゃんの目にもしっかりと映っているはずだ。

トレーナーのおふたり

（左）**譲尾恵子**（ゆずりお）さん
「（この活動は）将来復職を考えるママにとっても、家庭や職場とも違うサードプレイスになると思う」

（右）**松原由佳**さん
「高校生はもう親目線になっていたり、中学生の男の子は遠巻きだけれど『…かわいい』ってつぶやいていたり。そういった訪問先の人々の反応を見るのが好きなんです」

『池田市立五月丘小学校』赤ちゃん先生クラスレポート

この日のために練習した「赤ちゃん先生クラス」オリジナル曲「ベイビー、アイラブユー」でママ講師たちを迎えた小学2年生。赤ちゃんと触れ合い、ママ講師から赤ちゃんが健やかに育つための話を聞いた。自由に歩く赤ちゃんを追いかけ、転ばないよう見守る横顔はお兄ちゃん・お姉ちゃんらしい表情だった。

クラスを終えて…

赤ちゃんが眠そうにしていたり、こっちを向いてくれたりすると、かわいくて嬉しくなりました（女の子）

・きょうだいがいる子も一人っ子の子も、それぞれに赤ちゃんと一生懸命接してくれた
・赤ちゃんが泣き止まない時、子どもたちが自然と歌遊びを始めて空気が変わった
（ママ講師・トレーナー）

赤ちゃん先生

いっぱい泣いていた。なでたらちょっと泣き止んだけど、それでも泣いていてすごいパワーだった（男の子）

家族や先生、お医者さんなど多くの大人にお世話されて今日まで成長してきたことが子どもたちに伝われば（先生）

小・中学校、高校、企業、高齢者施設など「赤ちゃん先生クラス」の出動先は様々。世代を問わず「お世話してあげたい」という気持ちを引き出す赤ちゃんの力はすごい！

ママの働き方応援隊 大阪池田校
INFORMATION

●**交流会**（3/29、4/4 開催）
活動に興味のあるママや市民、協働したい企業・団体に向けた活動紹介と意見交換の場

●**ママ講師・トレーナー養成講座**
メンバー活動を始めるための講座

など実施中。詳しくは下記まで

参加希望・問い合わせ
Mail：osaka-ikeda@mamahata.net
Tel：080-5003-7202（園部）
Facebook「ママの働き方応援隊　大阪池田校」で検索
https://www.mamahata.net/

取材協力／ママの働き方応援隊 大阪池田校、池田市立五月丘小学校　文／刀祢美沙　デザイン／松浦愛梨　写真／西谷月彦